

[ 普及事項 ]

新技術名： リンゴのカメムシ類に対するスプラサイド水和剤の実用化（平成12～14年）

研究機関名 果樹試験場環境部虫害担当  
担当者 舟山 健

[ 要約 ]

スプラサイド水和剤は、リンゴのクサギカメムシに殺虫効果が高く、6月下旬～7月下旬のカメムシ類防除剤として実用性がある。

[ ねらい ]

近年、秋田県では果樹果実を加害するカメムシ類が増加しており、平成8年と平成13年には大発生してリンゴに著しい被害を与えた。平成14年のリンゴのカメムシ類に農薬登録のある殺虫剤は、スミチオン水和剤とMR・ジョーカー水和剤だけであり、防除薬剤が著しく不足している。そこで、ナシ等に既登録の殺虫剤「スプラサイド水和剤」のリンゴのクサギカメムシに対する防除効果を検討し、実用化を図る。

[ 技術の内容・特徴 ]

- 1．平成12年6月上旬の試験では、スプラサイド水和剤のクサギカメムシに対する殺虫効果と吸汁阻害効果は散布7日後まで高く、スミチオン水和剤と同等の効果を示した。薬害は認められなかった（表1、表2）。
- 2．平成13年7月下旬の試験では、殺虫効果と吸汁阻害効果は散布3日後までは高かったが、散布5日後以降では劣り、MR・ジョーカー水和剤に比べて残効期間は短かった。薬害は認められなかった（表3、表4）。
- 3．平成14年7月下旬～8月上旬の試験では、殺虫効果と吸汁阻害効果は散布2日後までは高かったが、散布5日後以降では劣り、スミチオン水和剤に比べて残効期間がやや短かった。薬害は認められなかった（表5、表6）。
- 4．以上の3例を含む効果試験の成績から、スプラサイド水和剤のリンゴのカメムシ類に対する防除効果が認められ、平成15年4月8日付けで登録を取得した。

[ 普及対象範囲 ]

県内リンゴ産地全域

[ 普及・参考上の留意事項 ]

- 1．本剤は、速効性は高いが、残効性が劣るので、飛来状況をよく観察して散布する。
- 2．本剤はサビ果の発生が懸念されるので、落花30日を過ぎるまでは使用しない。
- 3．本剤のリンゴでの使用基準は、使用濃度1,500倍、収穫30日前まで、2回以内である。

[ 具体的なデータ等 ]

平成12年の試験

表1 スプラサイド水和剤のクサギカメムシに対する殺虫効果

供試薬剤	希釈倍数(倍)	放飼日と死虫数					
		1日後	3日後	5日後	7日後	9日後	11日後
スプラサイド水和剤	1500	30	27	30	24	15	0
スミチオン水和剤40	800	30	30	24	24	0	3
無散布		0	0	0	0	0	0

表2 スプラサイド水和剤のクサギカメムシに対する吸汁阻害効果

供試薬剤	希釈倍数(倍)	放飼日と吸汁痕数						薬害
		1日後	3日後	5日後	7日後	9日後	11日後	
スプラサイド水和剤	1500	0	0	6	0	9	27	- <sup>a)</sup>
スミチオン水和剤40	800	0	48	39	9	9	54	±
無散布		138	45	51	33	15	15	

<sup>a)</sup> さび果がやや見られる。

散布月日：平成12年6月1日 対照薬剤：スミチオン水和剤40 試験方法：散布1日後～散布11日後まで、2日毎に供試虫(雌雄15頭ずつ)を放飼 調査方法：各放飼2日後に、放飼虫の生死と果実表面の吸汁痕数を調査

平成13年の試験

表3 スプラサイド水和剤のクサギカメムシに対する殺虫効果

供試薬剤	希釈倍数(倍)	放飼日と死虫数					
		1日後	3日後	5日後	7日後	9日後	11日後
スプラサイド水和剤	1500	30	30	6	0	0	3
MR・ジョーカー水和剤	2000	30	30	30	27	27	18
無散布		0	0	0	2	2	3

表4 スプラサイド水和剤のクサギカメムシに対する吸汁阻害効果

供試薬剤	希釈倍数(倍)	放飼日と吸汁痕数						薬害
		1日後	3日後	5日後	7日後	9日後	11日後	
スプラサイド水和剤	1500	3	6	72	96	126	21	-
MR・ジョーカー水和剤	2000	0	0	0	0	3	6	-
無散布		42	84	66	72	48	84	

散布月日：平成13年7月27日 対照薬剤：MR・ジョーカー水和剤 試験方法：散布1日後～散布11日後まで、2日毎に供試虫(雌雄15頭ずつ)を放飼 調査方法：各放飼2日後に、放飼虫の生死と果実表面の吸汁痕数を調査

平成14年の試験

表5 スプラサイド水和剤のクサギカメムシに対する殺虫効果と吸汁阻害効果

供試薬剤	希釈倍数(倍)	放飼日と死虫数				放飼日と吸汁痕数				薬害
		直後	2日後	5日後	9日後	直後	2日後	5日後	9日後	
スプラサイド水和剤	1500	10	9	2	1	0	1	87	83	-
スミチオン水和剤40	800	10	10	10	2	2	5	15	47	-
無散布		3	2	1	1	221	126	76	45	

散布月日：平成14年7月17日 対照薬剤：スミチオン水和剤40 試験方法：散布直後、散布2日後、5日後および9日後に供試虫(雌雄5頭ずつ)を放飼 調査方法：7月29日に、放飼虫の生死と果実表面の吸汁痕数を調査

[ 発表文献等 ]

なし